中学校
１年

Who is your favorite character?

八尾市立成法中学校

教科	英語	単元名	日本で人気のあるキャラクターを教えて！

日時・クラス・授業者

・日　時：令和８年１１月４日（水）５時間目
・クラス：１年３組（３１人）
・授業者：鈴木　初衣・Colton Cutchens

本時で育む主な情報活用能力

K－STEP3，L－STEP4
P－STEP4

該当番号の詳細内容は
「大阪府情報活用能力
ステップシート」から確認できます。

単元のねらい

本単元では、３人称単数現在形を使って、ブラウン先生の家族について紹介されている。人称代名詞についても確認しながら、主語によって動詞の形が変わることを学ばせたい。また、ブラウン先生の家族についての紹介文を読んだうえで、お気に入りのキャラクターについて英語で紹介する活動をとおして、本単元で学んだ文法事項をふまえて作文し、相手に伝わる英語として発音・イントネーション・アクセントを意識してコミュニケーションできることを目的とする。

本時のねらい

お気に入りのキャラクターについて、先生に英語で紹介する。AI を活用して音読練習を行い、正しい発音やイントネーションを意識して音読する。また、紹介の後に先生からされる質問に対し、既習の知識を用いて英語で返答する。

本時における「個別最適な学び」と「協働的な学び」のポイント

【個別最適な学びのポイント】
同じ到達目標に向かいながら、AI の助言、音声入力による確認、ペア練習、授業者の助言のうち、どの支援を必要とするかは学習者によって異なる。自分の課題に応じて練習の重点や繰り返し方を調整できる点を大切にしている。

【協働的な学びのポイント】
ペアで質問し合い、相手の答えに反応する活動は、英語が「相手に伝わってこそ意味を持つ言葉」であることを確かめる機会となる。仲間から得た気づきも、自分の表現を見直す手掛かりとなる。

活用した ICT 機器・デジタル教材・コンテンツ等

・ロイロノート　　・Canva AI

本時の展開（第３時/全３時間）

学習の流れ	主な学習活動と内容	指導上のポイント・工夫
導入 （１５分）	本時のめあて「　自分のお気に入りのキャラクターを英語で紹介することができる　」	
	・学習計画表に、本時の目標を書く	
	・お気に入りのキャラクターについて、ペアで質問し合う A：What can your favorite character do? B：He/She can～.	・質問した側は、相手の答えに対してリアクションも行うよう指示する（「Really?」「I see.」など）
	・授業の最後に行うチェックの見本を見せる	・評価のポイントを伝えながら、見本を示す 相手に内容が伝わること、既習表現を活用することを成功の手掛かりとして共有する
展開 （３０分）	・AI に添削してもらった英文を原稿に書き、授業者にチェックしてもらう	・まだ終わっていない人のみ
	・AI に音読する上でのアドバイスをもらい、音声入力機能を使いながら音読練習を行う	・後述のプロンプト①を使って AI からアドバイスをもらう ・必要であれば、音声入力機能を使い、自分の発音が正しいのかどうか確認してみてもよい ・あくまでも、ALT や授業者と直接英語でやり取りするための練習として AI を使う ・机間指導を行って、手助けが必要な学習者をサポートする。

	・原稿の内容について、AI に質問を作ってもらう ・質問の答えを考える	・後述のプロンプト②を使って AI に質問を作成してもらう ・必要であれば、ペアの学習者に練習してもらう
	・授業者のところへ行って、音読の発音と、質問に対する答えをチェックしてもらう	（知識・技能） 正しい発音を意識してすらすら読むことができている…A （思考・判断・表現） ３問中２問以上正しい文法で答えることができている…A （主体的に学習に取り組む態度） 相手に聞こえる声で話すことができている…A
	・チェックを受けた人は、周りのサポートを行うか、「自分まとめ」のプリントに取り組む	・チェックが終わらなかった学習者は、次回時間をとって実施
まとめ （５分）	・学習計画表に、本時の振り返りを書く	

授業者の声～情報活用能力をはぐくむポイント～

１人ひとりの英文の添削を、限られた時間の中で授業者だけでおこなうのは難しいが、生成 AI を活用すれば、学習者自身で解説を読みながら正しい表現に書き換えることができる。本実践の出発点は、「自分の好きなキャラクターを相手に紹介したい」という学習者自身の思いにある。生成 AI による添削を取り入れても、その思いや伝えたい内容を AI に決めさせない。提案された表現を理解し、自分に必要かどうか判断する過程に、情報を主体的に活用する学びが表れている。

AI の助言や音声入力は、自分のペースで繰り返し練習するための手掛かりである。一方で、本時の到達点は端末上の結果ではなく、授業者や ALT を目の前にして、自分の言葉を声に出し、問いに答えることに置かれている。AI での個別練習と、人と人とのコミュニケーションを往還させる構成が、この授業の大きな魅力である。

さらに、自分が準備した紹介文に対し、AI が作成した質問を材料に答えを考えることで、単なる原稿の読み上げにとどまらず、相手からの問いを受けて英語で伝える準備を進めている。ここでも答えを AI に作らせるのではなく、既習表現を用いて学習者自身が考える点に意味がある。

参観の先生方には、練習の上手下手だけでなく、自分に必要な助言を選んだり、発音・読み方を工夫し直したりする姿、そして練習を経て実際の相手に伝えようとする姿を見ていただきたい。こうした過程に、情報活用能力と自己調整能力、英語科としての学びが結びついている。

〈プロンプト①〉
私は中学校 1 年生です
これから英語の音読練習をしたいので、今から送る英文を音読するときのアドバイスが欲しいです

① 発音　　発音するのが難しい単語を教えてください
② 読み方　どの言葉を強く読むとよいか、どこで区切って読むとよいか詳しくわかりやすく教えてください
③ 全体　　もっとよくするためのアドバイスを 1 つしてください

【大切なこと】
・中学校 1 年生に分かる日本語で説明してください　　・英語と日本語を混ぜてアドバイスしてください
・大切なポイントを 5 ～ 6 個教えてください
【英文】
（ここに英文を入力）

〈プロンプト②〉
さっき送った私の英文について、内容がもっと深まるような質問を 5 問作ってください。ただし、英文には書いていない情報を聞いてほしいです

【質問のルール】
・5 問を一度にまとめて出してください
・私がさっき送った英文の内容に合った質問にしてください
・残りの 3 問は、Yes/No だけでは答えられない質問にしてください
・5 問が同じような内容にならないようにしてください。
・質問に対する答えや答えの例は書かないでください。
・中学校 1 年生でも答えられる簡単な英語を使ってください
・5 問のうち、2 問だけ Yes / No で答えられる質問にしてください
・What ～?、Why ～?、Who ～?、How ～? などを使ってください
・それぞれの質問の下に日本語訳を書いてください。

では、5 問を一度に出してください